



函館の市街地でも、この冬は雪が少なく、何となく寂しさを感じる今日この頃。真っ白な雪との触れ合いを求めて、函館七飯スノーパーク(七飯町東大沼)が26日に行った、かまくら作り体験に参加してみた。(石井久恵)

# 行って やって みた!

記者が体験

## かまくら作り 七飯町

## 雪掘り、かき出す チームワークで

# 息切らせ1時間で完成

同パークが親子らにスキートやスノーボードだけでなく雪遊びも楽しんでもらいたいと、今年初めて行った



完成したかまくらに入り、笑顔で写真に納まる参加者の子供たちと佐伯さん

「雪育プロジェクト」第一弾。家族連れ約30人と一緒に、雪山でのパーク(非常野営)にも役立つ、かまくらスノーマウン

同パーク営業係長で、スキーとフルタイムワークオーキングの指導員資格を持つ佐伯秀信さん(56)が企画し、講師役を務めた。「かまくらの中でも比較的短時間で簡単に作れるのがスノーマウン

と、雪を積み上げる②横穴を掘ってザックを引き出し、さらに掘り進める。今回は主催者側が、ザック代わりの袋の上に雪を積み上げ、高さ1.5m、幅2mほどの雪山をあらかじめ作っておいた。3グループに分かれた参加者は、完成した見本のかまくらを見ながら交代でスコップを使って計3基の製作に着手。佐伯さんの指導で、固まっている雪は削り

かまくらを作る雪山は近い山頂付近へ移動した。内冬晴れの絶好のコンディションに恵まれ、気温は氷点下12度。山頂に向かいながら雄大な駒ヶ岳の姿が雪空に映える風景を眺めることができ、思いがけない感動に包まれた。一般的なスノーマウン

の作り方は、①複数のザックをシールド(非常用マウン)で包み、その上から雪を固めながら積み上げる②横穴を掘ってザックを引き出し、さらに掘り進める。今回は主催者側が、ザック代わりの袋の上に雪を積み上げ、高さ1.5m、幅2mほどの雪山をあらかじめ作っておいた。3グループに分かれた参加者は、完成した見本のかまくらを見ながら交代でスコップを使って計3基の製作に着手。佐伯さんの指導で、固まっている雪は削り

取るようにかき出していくと効率よく進められた。内壁の表面が凍結しているため、雪を取る時に雪が解けやすいため、滑らかに仕上げるのがポイントだそう。「天井が丸くなるように掘



雪山の安全策も学んでもらおう、かまくら作りを手ほどきした講師の佐伯さん



インドネシアから外国人観光客も飛び入りで参加し雪と触れ合った

「山ではみんなでチームワークを長くして助け合るのが大事」。かまくらの中の雪を掘る人、排雪する人が連携する。男性の参加者からは「これ結構疲れますね」との声も。自分も懸命に取り組み、鼻が上がついた。かまくらは1時間ほどで完成。「チームワークもぼちちですね」と佐伯さんからお褒めの言葉もいただいた。

子供のころにかまくら作りの経験がある函館市の木村幸恵さん(44)は「同じ体験をさせてあげたい」と、学生の娘2人と参加。天人も真心にかきました。

2月以降に行われる「雪育プロジェクト」の催しは次の通り。(問い合わせ先は函館市観光課0138-67-3355)

▽「体験型スノーパレード たいまつ聖火パフォーマンスを見よう」2月29日午後6時コンドラチケット売り場集合、同7時開始。キャンドルの明かりがとる「シーニックデナイト2020」を楽しむ。「たいまつ湯降」を見学。温かいスープの提供あり。見学無料。

▽「グループ対抗雪探しゲーム」3月7日午前11時半コンドラチケット売り場集合。遭難時に位置情報を知らせるトーン(電波送信機)の取り扱いを学び、ゲームを楽しむ。参加無料。申し込みは3〜4人一組で。定員30人(定員になり次第締め切り)。